株式会社 ESSPRIDE
2019 年 11 月吉日

第 5 回カンファレンス開催レポート

日時：2019 年 10 月 23 日（水）16:30～21:00
場所：ラグナヴェールプレミア
参加者：報道関係者、経営者、学生　約 100 名

「自己開示」「本気を見せる」「楽しませる」組織作りが令和の経営者のキーワード
中小企業の採用・後継者育成を応援するカンファレンス全国ツアー　第 5 弾　大阪

ちさんちさい
地産地採

「Charming Chairman's Club TOUR 2019 in 大阪」
（チャーミング・チェアマンズ・クラブ・ツアー）
～令和の愛されるリーダーとは～

主催：社長チップス　　メディアパートナー：Forbes JAPAN

おやつエンタテイメント製造会社、株式会社ESSPRIDE（所在地：東京都渋谷区、代表取締役CEO：西川　世一）は、「Forbes JAPAN」（リンクタイズ株式会社、取締役社長：角田勇太郎）をメディアパートナーに迎え、2019年10月23日（水）、全国各地で行う社長と学生のカンファレンス「Charming Chairman's Club TOUR 2019（チャーミング・チェアマンズ・クラブ・ツアー2019）」を大阪で開催しました。
カンファレンスではメインテーマである「令和の愛されるリーダーとは」を軸に、ベンチャーバンク株式会社の佐伯信行社長が「令和時代に、経営者がやめるべき３つの仕事」をテーマに講演。また、トークセッションでは「経営理念に基づくビジネス展望とリーダーシップ」や「多様化するニーズに対応する組織づくりと人づくり」などのテーマのもと、関西で活躍する社長によるトークセッションが行われました。
社長が語る経営理念や目指すリーダー像には、ありのままの自分で向き合い自己開示することによってチーム力を向上させることや、世の中の人や社員を楽しませること、個を認め周囲の人の幸せを追求すること、そして経営者の本気を見せることによって組織がまとまり強くなるというお話が様々な角度から登場し印象的でした。働くシーンで多様化が進む中、令和時代の組織づくりにおけるヒントがたくさん飛び出した大阪開催の様子をご報告します。

■Charming Chairman's Club TOUR 2019 とは
全国の中小企業の採用ブランディングや後継者育成に効果的な発信を社長に呼びかけ、社長の学び、ビジネスマッチング、学生との交流の機会を創出したいとの強い思いのもと「社長チップス」が企画しました。
カンファレンスとして社長や学生が参加し、各地域の社長によるプレゼンテーション、「令和の愛されるリーダーとは」をテーマに掲げた時代を牽引するリーダーによる講演やトークセッション、懇親会などの内容で行うもので、7 月に開催した東京・銀座のカンファレンスを皮切りに、福岡、仙台、福井と続き、今回大阪の後も年内に名古屋、札幌、広島、埼玉、沖縄、千葉、そして最後のファイナルを東京で展開。地域で活躍する社長を学生と繋ぎ、その地域で育ち学んだ地域に縁ある学生の積極的な採用「地産地採(ちさんちさい）」を応援します。
またメディアパートナーとして Forbes JAPAN を迎え、誌面掲載などを通して広くアプローチするとともに、エリアパートナーとして各地の新聞社を迎え、若い世代と社長同士の交流を促進することで地域活性化の実現を目指します。

■Charming Chairman's Club TOUR 2019 in 大阪　開催レポート
日時：2019 年 10 月 23 日（水）16:30～21:00
場所：ラグナヴェールプレミア（大阪府大阪市北区梅田 3-1-3 大阪ステーションシティ ノースゲートビルディング 28 階）
参加者：報道関係者、経営者、学生　約 100 名

■主催者挨拶

株式会社 ESSPRIDE　代表取締役 CEO　西川世一

「僕たちは『Charming Chairman's Club TOUR』と題し、全国を廻りながら魅力的な経営者を発掘、今回は大阪を訪れ、より多くの人に知っていただく取り組みを行っています。この TOUR をはじめた経緯をお話ししますと、僕は会社を設立して 15 期目ですが、元々は父のダンボール紙器の会社の跡継ぎから始まりました。当時は現在のような事業を展開しているわけではなく、社員が 1～2 名、パートが 3～4 名の小規模な会社。優秀な若者は集まらないし、このまま経営していてもほとんどの人に知ってもらえないのではないかと感じていました。その時のもどかしい気持ちから、全国の中小企業の社長自身が熱い想いを届けられるサービスを生み出し貢献したい！と考えたのが『社長チップス』です。全国には多くの人に紹介したい素晴らしい会社、面白い会社があるのに、若者は知るチャンスがありません。僕たちはこのプロジェクトを通じて未来を創っていく若者に、魅力溢れる経営者をどんどん紹介したいと思っています。様々な地域で後継者不足による黒字廃業がたくさんある中で、このカンファレンス TOUR を通して、社長と若い世代を繋げ、より多くの会社とその社長の声を多くの学生に伝え、少しでも課題解決に繋がるよう取り組んでいきたいと考えております。」

＜Keynote＞

1 部
テーマ「令和時代に、経営者がやめるべき 3 つの仕事」
株式会社ベンチャーバンク 代表取締役社長 兼 CEO 兼 CHO 佐伯信行 氏

「まず 1 つ目『ワンマン経営をやめる』ことです。ワンマン経営は一人ですべてをやるわけですから非常に効率が悪く、社長自らが弱点を隠すためにトップダウン経営になっていきます。そして、自分ができないことを社員にやらせるようになり、イノベーションが鈍化していき、結果、崩壊しか道はなくなります。経営者は『自己開示』、特に『Open Mind』『Open Heart』『Open Will』の 3 つの要素を行うことでワンマン経営をやめることができます。まず『Open Mind』は、ご自身の価値観や固定概念を外し、事実に基づき、ありのままの自分自身を観察している状態です。次に、『Open Heart』は、相手の感情を理解し、共感できているような状態です。そして『Open Will』、内なる自己の本質を受け入れ、それをアウトプットする意志がある状態です。これだけで組織というのは大きく変わり、外部から『HERO』、つまり自分ができないことを埋めてくれる人たちが集まってくれます。自身の弱みを開示し、非なるものを受け入れ、委譲する。これが非常に大事なんです。
2 つ目は『事業計画を強行しない』ことです。なぜならば、未来を予測しても、その通りになる確率は極めて低い。しかし、もちろんですが、事業計画はひとつの基準、迷った時の道標としてきちんと作ります。作った上で、その通りにはならない、そういう可能性があるということを常に感じ取る感性が非常に重要です。市場の先を見る感性と、それを裏付ける明確なロジックは事業計画をも覆すこと。事業計画通りに行くことはすばらしいですが、我々は常にその先、もっと上を目指すからワクワクすることができるんです。
そして最後 3 つ目は『社員のモチベーションは追わない』。人のモチベーションっていうのは管理できない。だから、モチベーションを上げていこう！なんていうのは無駄なんです。社員のモチベーションを管理するのではなく、成果を出す自走社員の育成こそが社長の仕事なのです。key ポイントはモチベーションの正体で、『Hope（希望）』『Efficacy（自信）』『Resilience（回復力）』『Optimism（楽観）』の 4 つの要素からなる、『心理的力量』を高めること。この 4 つの頭文字から、心理的力量を『HERO』と言います。『HERO』を高め、そして『HERO』を阻害する企業や組織のカルチャー（社内風土）を改善し、『SAFE』を作ることが重要です。『SAFE』を簡単に言うと、何かを提案したとき、反対、叱責、否定されるのではなく、みんなで議論して高め合っていける、明確なフィードバックをもらえる環境の構築です。社員の『HERO』が低く、『SAFE』がない組織では、社員は成功か失敗かが不安になりチャレンジがなくなります。ですから経営者が自ら体現するべきなんです。『チャレンジの先には成功か大成功しかない』。そう思ったら、チャレンジしない理由もなくなります。
令和のリーダーに必要なことは『S（信じて）』『O（面白く）』『S（支える）』の『SOS』です。人を信じて、ワンマンにならず、外部からも受け入れ、そしてワクワクを創設する感性を持ち、周囲を巻き込んで正しいものをどんどん作る。そして先ほどの『SAFE』で、支えるんですよ。安心安全じゃないと人は育ちません。そういう『SOS』を持ったリーダーがいる会社、社会、組織というのは、この先も継続的に成長するんじゃないかなと思います。」

＜Talk Session＞

1 部
テーマ「経営理念に基づくビジネス展望とリーダーシップ」
登壇者： Chatwork 株式会社　代表取締役 CEO 兼 CTO　山本正喜　氏
Suprieve 株式会社　代表取締役　森武司　氏
株式会社 CONY JAPAN　代表取締役　小西正行　氏
立教大学ビジネススクール教授/社長チップス応援団長　田中道昭　氏
（ナビゲーター）

世の中の人が働くことを楽しめるようにと開発したビジネスチャットツールで、現在日本中の企業の働き方改革を支える山本社長、
関わる人々や世界を幸せにできるかという観点で教育・福祉・通販・広告など幅広く事業を手掛ける森社長、
自身の経験から理念を浸透させるために基本的なことを継続することが重要とする小西社長の 3 人に
経営理念とリーダーシップについてお話しいただきました。

Chatwork 株式会社（東京）　代表取締役 CEO 兼 CTO　山本正喜　氏
「Chatwork は『働くをもっと楽しく、創造的に』を MISSION に掲げ、事業を展開しております。我々は 2000 年に、大学生だった私と兄の 2 人で学生起業しました。インターネットに興奮し、『これは世界が変わる！』と居ても立ってもいられなくなってビジネスを始め、見よう見まねで名刺を持って“商談”というものを夢中でやって、『仕事ってこんなに楽しいんだ！』と思ったのが僕の原体験としてあります。そこから様々な社会人経験をしていくにつれて、『世の中の人たちはあまり働くことを楽しいと思っていない』と気付きました。その時に、『働くということをただ生活の糧を得るためだけじゃなくて、自分の仕事を通して人生の自己実現をしていく。それが社会の価値を作って、フィードバックをもらえる』という世界にしていきたいと感じ、MISSION に想いを込めました。MISSION というものは『WHY（なぜ）』なんです。なぜやるか、なぜこの会社をやるか、という究極のところが MISSION だと思っています。MISSION と関係ないことはやってはいけないし、やらない。すべての制度、事業や経営も『WHY（なぜ）』を繰り返していくと MISSION にたどり着く。ただ述べればいい、ただきれいな言葉があればいい、というわけではないと思います。
また、強いリーダーシップを持ってトップダウンでガンガン引っ張っていくのではなく、『個人個人のやりたいことを会社というステージを通して実現できるようにする』環境を整えながら、やりたいこと、できること、そしてそれがお金になって社会の役に立つ。そのすべてが重なるところを作り、全体として社会課題を解決していくことがこれからのリーダーには必要だと思います。」

Suprieve 株式会社（大阪）　代表取締役　森武司　氏
「Suprieve の経営理念は『この上ない最高の会社を創る』です。少し古い、内向きの理念と言われることもありますが、2 年前くらいに役員全員で合宿をし、2 日間かけてもみ合い、半分けんかしながら作りました。弊社には全部で 21 事業があり、『共通する理念って何だろう？』、『尊敬できる、就職したい、子供にも働かせたい会社って？』、と考え、最終的に『従業員が幸せにならないとだめだよね』、『顧客が喜んでくれるサービスを作らないとだめだよね』、『世界が幸せになる商品を提供しないとだめだよね』という結論に至りました。そのために、サブキャッチコピーは『世界と従業員と顧客が幸せに』としています。そして、理念に反することは行わない、従業員が喜ばないことはしないことにしています。この経営理念を作る前に行っていたサービスのうち、理念に合わないものはバイアウトしたり、撤退したりしています。結果として、経営理念を作ってから離職率は半分以下になりました。社員の満足度も上がったと思います。社員の普段の言葉や態度から、会社を愛してくれている、リスペクトしてくれてるんだな、ってひしひしと伝わってきます。会社を成長させるためには、経営理念があれば一丸になって戦えるんだと、ここ数年実感しています。
リーダーとして意識していることは『誰よりも会社をよくしたい』という本気の行動を見せることです。弊社の 1017 名の社員の中で、立派な会社にしたい・素晴らしい会社にしたいという想いは僕がダントツ 1 位だという自信があります。
そしてメンバーも、会社に対する行動と想いがあふれているくらいの、本気の行動を見せてくれる人と仕事をしたいなと思っています。」

株式会社 CONY JAPAN（大阪）　代表取締役　小西正行　氏
「CONY JAPAN はひと言でいえば、『Four（4）Happiness』という経営理念です。設立当時は離職率が高く、今から 18 年前に経営理念を作りました。経営理念を作ったと同時に新卒採用をスタートし、どうすれば経営理念を組織に浸透させ、定着させていくことができるかと考えていく中で、ルーティンで行う朝の習慣が大切だな、ということになりました。そこで毎朝の掃除と朝礼をきちんとやろうというところから、社員に理念浸透を促していきました。これをずっと続けてきて、社員の離職率は本当に減ってきましたし、安定して会社を経営することができていますので、何事も継続すること、単純に『続けること』が大事だと思っています。
また、リーダーというものは、『あの人についていきたい』、『同じ何かをするならあの人と一緒にやりたいな』という存在だと思っています。そのために自分が生きていく上での個人の使命を果たさないといけなくて。事業をやっていく中では、まずは本気で自分の会社を社内で一番愛さないといけないし、やっている業界業種業態に関して真剣に考え、新しいことを発掘していかないといけないと思っています。そして、やはり誰よりも情熱をもって、未来のビジョンをしっかり描き、誰よりも真剣に向き合って突き進んでいる姿こそが大切なことだと思います。」

＜Talk Session＞

2 部
テーマ「学生が語る、求めるリーダー像」
登壇者： 同志社女子大学　学芸学部　3 年　太田有紀さん
大阪大学　人間科学部　3 年　林田昂大さん
大阪大学　医学部　6 年　藥王俊成さん
立教大学ビジネススクール教授/社長チップス応援団長　田中道昭　氏
（ナビゲーター）

大学生として学生団体やプロジェクトリーダーを務める皆さんに、
どんな社長や企業に魅力を感じるか、若い力を必要としている社長が優秀な学生にアプローチするには
どんな働きかけや姿勢が求められているのか語っていただきました。

同志社女子大学　学芸学部　3 年　太田有紀さん
（学生によるデザイン事務所 DANDELION を創立、運営）
「組織は技術職をもっとうまく活用できるのではと思っています。現在私はデザイナー職と組織の運営を兼任しているのですが、社内政治があってデザイナーとしてはうまく動けないケースが多くて。そういうのがなければ、もっと自由に動けて面白いものも沢山作れるのにと思います。一人ひとりが自由に動けるようになるには、それぞれが発言できる機会を作ることが大事かなと。そして運営する立場としてはそれぞれの発言に価値を持つような組織にしたいと思っています。
一緒に働きたいと思うのは、”面白い人”。その面白いと感じるのは、自分が選ばなかった選択肢を選んだ人とか、考えないことを考えてきた人のことです。そういう人たちと仕事したいですね。
経営者として魅力的だなと思う人については 2 つあります。一つは、技術的にすごく力がある人。もう一つは愛嬌がある人。話しやすい空気感を出してくれる人だと、こんな質問をしたら怒られるかなという不安がなく、本質的な議論がしやすいと思います。」

大阪大学　人間科学部　3 年　林田昂大さん
（任意団体ヨリアイの共同代表・関西ビジネス企画サークル AXIS 代表）
「自分がやりたいと思えることや心を動かされることでないといくら頑張ってもいつか頭打ちがくると思います。なので組織づくりにおいては、個々がまず自分の欲求を知ることが大事で、その先に仲間の欲求とかみ合っていく部分を探していく。学生はそういう風に場や組織を作っています。僕自身は、大体合ってるけど“ちょっと”ずれてる部分が許容されない組織にならないよう、一つの価値軸を持ちつつもそれぞれの空気や色をにじませていけるような場を作りたい、一人ひとりの価値観や存在意義を否定しないリーダーでありたいと思っています。
働きたい会社や社長に関しても同じで、自分自身の価値観と会社の未来に対して、どう一緒にやれそうかを探せるととてもいいなと思います。また、自分がやりたいことで起業するのか、就職してやるのか、と考えたときに、会社と個人との関わりが 0 か 100 かではなくもう少しグラデーションが付けられる働き方ができるといいと思います。
どんな仲間と働きたいかというイメージとして僕らの組織で重視していることを例にお話しします。1 つ目が『作り手であること』。自分自身のやると決めたことに向かって動いている人。2 つ目に『スベる話ができること』。人に話してスベるようなことでも笑って楽しくいこうよって思えるのって大事だなと。3 つ目は『それを生涯かけてやっていく』ということ。この先、働き方はいろいろあるかもしれないけど、それぞれの価値観やビジョンは今後も長期にわたって追っていくものであるという大前提のもとに、一緒にやっていくということを大事にしています。」

大阪大学　医学部　6 年　藥王俊成さん
（WAKAZO 代表）
「僕たちの世代は新卒の時点で 4 分の 1 が転職を考えているという調査結果があります。終身雇用は最初から考えていないんです。今の新卒が入りたい会社はというと、自分でいろいろ取り組めて、その中でスキームを勝ち取れる環境を求めています。なので、いつか転職するかもしれないけど、やらせてみよう！とおおらかな気持ちを持ってくださっている社長を魅力的に感じます。
僕も学生団体の代表をしていて『人に任せる』ということを大事にしています。1 回生や 2 回生にも僕らのキーコンテンツを作ってもらっていて、ほとんど関与せず任せていますがビジョンがあるのでずれはありません。リーダーとしてはビッグビジョンを掲げ、ある意味、大ぼらを吹くことも重要だと思います。僕自身は派手に振る舞う方でなくコツコツ創るタイプなので、メンバー内で役割をすみわけていますね。
今日この場にいる社長さんやメディアの皆さんにお伝えしたいのですが、2021 年の大阪万博には僕たち若者が関わるべきだと思っています。僕らは中高生を対象としたイベントも行っているんですが、中高生と大学生でもすでに感性に差が生まれていると感じます。僕たち大学生は社会を知るにつれて、世間のレギュレーションみたいなもの、これをやったら NG だとか自ら制限を作ってしまっていますが、中高生には何もなくて、まじかよっていうアイデアがどんどん出てきます。そして彼らのアイデアの根底には世界を救う・人を救うといった考え方があるのが特徴的です。若者だからこそできる発想が間違いなくあるので、皆さんにサポートしてほしいなと思っています。若者がめちゃくちゃやる様子、9 割失敗するかもしれませんが 10%の成功の可能性にかけていただいて、見届けて応援していただきたいです。」

＜Talk Session＞

3 部
テーマ「多様化するニーズに対応する組織づくりと人づくり」
登壇者： 株式会社関西インバウンド事業推進協議会 代表取締役 堀感治 氏
ユタカ交通株式会社 代表取締役社長 豊田英三 氏
立教大学ビジネススクール教授/社長チップス応援団長 田中道昭 氏
（ナビゲーター）

市場ニーズ変化の速いインバウンド・観光事業を行う堀社長、豊田社長のお二人に
多様化するニーズに対応する現場での組織づくりの経験とリーダー観についてお聞きしました。

株式会社関西インバウンド事業推進協議会（大阪） 代表取締役 堀感治 氏
「今は爆買いブームが終わりかけて、本来の『観光』、日本の風土を感じたり見たり食べたりということが人気になっています。関西は爆買いが流行ってるから新たに店を出そうとか、爆買いが終わりそうになったら今度は体験型だ～、というように、ニーズの変化に対して後追いになりがちだと思いますね。
弊社はお客様が楽に観光できるよう交通インフラを整えることから始まり、ニーズに合わせて情報インフラ・決済インフラと展開してきました。でも観光業で大切なことはただ一つ、『お客様を笑顔にする』ということだけなんですね。ですので、ニーズの多様化といっても大事にしているのは、私たちが見慣れている風景や場所もお客様にとっては初めての体験なんだという視点でご案内・対応すること、もう一度関西に来たいなと思ってもらえるよう心がけて行動することだけです。
うちは、仕事が好きで、みんなを喜ばせたいと思っているメンバーが集まっているので、そういうスタッフが何かに取り組むときには極力手を貸さずに、自分でやってみろと言っています。どんどんやらせています。でも最後の砦みたいな感じでみんなの安心できる存在でありたいと思っていますし、そういうのがリーダーのあるべき姿だと思っています。
令和の愛されるリーダーというのも、お兄ちゃんやお父さんではないですけど、最後に頼れる存在じゃないかと思います。私の会社は『仕事は根性だ！』とか、『ハートで人は動くんだ』といった昭和的な考え方の人が多くて、21 歳の娘には『今時そんな会社じゃ続かないよ！』ってよく言われるんですが、僕らはその想いはこれからも大事にしたいなと思っています。それをわかってくれる若い人と働きたいなと思いますね。

ユタカ交通株式会社（和歌山） 代表取締役社長 豊田英三 氏
「『ジョーカー』という映画を観られた方はいますか？まさに日本の社会だ、と思いませんでしたか？日本には、障がいをもった人、引きこもりの人など、社会的な弱さにつながる事情を抱えた方が 1000 万人以上います。要介護や認知症の方も含めると人口の 1 割くらい。それが日本社会のリアルです。働く人も身近にそのような事情を抱え、例えば正社員で働けずパートの給料で生活していかないといけないとか、看病・介護しながら働きたいとか、働く時間が限られるけれども一生懸命仕事をやりたいとか、頑張りたい、でも…という人がたくさんいます。そういう人たちと一緒に考えて、その想いがあればこの時間で働いてみてとか、パートだけど管理職の待遇ね、とか弊社ではいろんな人、階層が出てきています。
学生の頃は、テストの点でクラスや授業が分けられていたりとか、荒れている学校、まじめな学校とあったりして、自分と近しいタイプの人たちと一緒に過ごしてきたと思います。でも社会に出たら、みんな一緒です。会社のお得意様が自分と正反対のタイプかもしれません。そういう中で生きていくには、やはり頭の良さだけではなく、人に対してどういうふうに対応していくのかが重要だと思います。個の利益を追うのではなく、みんな一緒になって、心の底から、周りの人を互いに尊重し、守るという考え方に転換していく時代なのかなと思います。
そんな時代のリーダーに重要なことは、1 対 1 で本音でしゃべれるかどうか、相手のことを本当に思っているかどうかだと思います。本気になって叱ってくれるとか、私のことを考えてくれる、という人が愛されるリーダーになるのではないでしょうか。僕自身はついつい強めに言っちゃうので、愛されてないんですよね（笑）。でも当人同士で、お互い通じていればいいのかなと。これからは個人、そして個と個の調和が非常に大事な時代だと思っています。」

■今後の Charming Chairman's Club TOUR 2019 開催スケジュール
【広島】11 月 22 日（金）16:00～21:00 いいオフィス広島 （広島県広島市中区東千田町 1-1-61 hitoto 広島ナレッジスクエア 1F）
【埼玉】11 月 29 日（金）16:00～21:00 ベルヴィ 大宮サンパレス/GLANZ「ダイアリー」 （埼玉県さいたま市大宮区仲町 1-123）
【千葉】12 月 9 日（月）16:00～21:00 船橋グランドホテル B1F 芙蓉の間 （千葉県船橋市本町 7-11-1）
【沖縄】12 月 6 日（金）16:00～21:00 琉球新報ホール （沖縄県那覇市泉崎 1 丁目 10 番 3 号）
【東京 final】：12 月 13 日（金）16:00～21:00 恵比寿ガーデンルーム （東京都渋谷区恵比寿 4-20）
※その他の詳細は Charming Chairman's Club TOUR 公式サイトにてお知らせさせていただきます。

＜Charming Chairman's Club TOUR 2019 公式サイト＞
http://charming-chairmans-club.com/tour2019/

Charming Chairman's Club TOUR 開催にあたり、経済産業省 大臣官房 商務・サービスグループ参事官 佐々木啓介氏から激励のお言葉をいただきました。

＜経済産業省 大臣官房 商務・サービスグループ参事官 佐々木啓介氏 激励のご祝辞＞

（2019 年 7 月 23 日開催、第 1 回 Charming Chairman's Club TOUR 2019 東京・銀座カンファレンスにて）

社長のみなさんは肌で感じていることと思いますが、日本経済と企業活動を取り巻く環境は日々ものすごいスピードで大きく変わっています。
現在は労働生産性向上が大きなテーマですが、アメリカでも日本でも、勢いのある新規上場企業と比べて既存上場企業の国全体の生産性向上への貢献が大きいことがわかっています。
つまり既存企業であっても従来のやり方や考え方にとらわれずに挑戦する気持ちがあれば、まだまだ変化や成長ができるということです。例えばこれからの消費・経済を担う若者と意見を交わし、変化していくということは、企業経営者にとっては挑戦でもあるかもしれませんが重要なことです。
企業経営者の方々が発信し、傾聴し、「世の中を大きく変えるんだ！」という若者のハートを捕まえて、大きく成長していただく。これが、令和の時代の新しい成長モデルなのではないかと、私は確信しております。
Charming Chairman's Club の取り組みは本当に素晴らしく、これから TOUR として全国で地域に密着した取り組みを行っていくことも大変意義深いです。やはり地域が元気にならないと日本も元気にならない、日本が元気でないと世界も元気になりません。地域の元気な、Charming な CEO の方々にますますご活躍いただく、この取り組みを応援したいと思います。

■Charming Chairman's Club（チャーミング・チェアマンズ・クラブ）とは

激動の日本経済を支える、数多くの中小企業。
そこには、必ず情熱に溢れた社長たちのストーリーがあります。
Charming Chairman's Club (CCC)は、全国 47 都道府県から魅力ある経営者を発掘し、事業の功績や人柄を広く世に伝えるとともに、イベントなどを通して社長同士、社長と未来を担う学生とのインタラクティブなコミュニケーションの場を創出し、更なる飛躍を応援しています。
今年 4 月 10 日に初開催したアワード "Charming Chairman's Club CHAMPIONSHIP 2019" （チャーミング・チェアマンズ・クラブ・チャンピオンシップ 2019）では、全国の社長の中からチャーミングな社長 No.1 を大学生が選び、この社長と一緒に働きたいという観点で BEST100、FINALIST5、そして CHAMPION 社長が選出されました。
＜http://charming-chairmans-club.com/championship2019/＞
来年 2020 年 4 月 10 日（金）には第 2 回の CHAMPIONSHIP 開催が決定しています。

■主催 「社長チップス」とは

「社長チップス」 は、全国の社長が所属する社長プロダクションを目指しています。
社長をカード付きポテトチップスにしたり、社長の人柄や人生が伝わる詳細な情報を WEB 掲載することにより社長のファンを増やす様々な取り組みを企画しています。
「社長」×「ポテトチップス」という異色の組み合わせから注目を集め、これまでに 500 以上のメディアに登場。発売開始から約 3 年で 350 名以上の社長が参画しています。
全国の社長を支援することによる地域経済活性化を目指し、社長や学生の交流会、イベントの開催、メディアコンテンツ制作など、社長のプレゼンテーションプラットフォームとしても様々なコンテンツを提供しています。
チップスの種類は 2016 年 4 月に発売した「汗と涙の CEO（塩）味」からはじまり、
2019 年 2 月「激辛人生スパイ CEO（シーイーオー）味」、5 月「このインパクトがクセになる 柚子こ CEO（ゆずこしょう）味」と続き、9 月に「B.LEAGUE 9CLUB 社長チップス～バスケットにたい CEO 抱け（大志を抱け）味～」を発売しています。

社長チップス公式サイト http://shacho-chips.com/

■会社概要

社名	：株式会社 ESSPRIDE（エスプライド）
所在地	：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3 丁目 17-11
代表者	：代表取締役 CEO 西川 世一
設立年月日	：2005 年 4 月 25 日
資本金	：77,500,000 円
事業内容	：おやつエンタテイメント製造業、社長プロダクション運営
HP	：http://esspride.com/

●ESSPRIDE の事業「おやつエンタテイメント製造業」とは

「おやつエンタテイメント」とは、ESSPRIDE が世の中に発信している独自の概念。
まるで“おやつ”のように人々をハッピーにし、心を歓びで満たすエンタテイメントを様々な形で生み出していきます。
“おやつ”とは食べるお菓子ではなく、音楽やスポーツ、仕事、趣味、ちょっとした息抜きなどの際に心に躍動感や充実感を与えてくれるものすべて。
嬉しい、楽しい、ワクワクする、愛、幸せ、やすらぎ･･･
人々を惹きつけ互いに手を繋ぎたくなるような「おやつエンタテイメント」となる空間、商品、サービスなどを製造することで、ESSPRIDE は人と人、人と企業、学生と企業、企業と企業、そして企業と地域を繋げ、世の中に新しい価値を提供できるよう挑戦を続けていきます。

＜本件に関するお問い合わせ＞
ESSPRIDE 広報室
TEL：03-3479-3610 MAIL：kouhou@esspride.com